

三加和中
里山だより

和水町立
三加和中学校
(和水町板橋
1001)
文責：益崎

過去を振り返り、未来を考える

バック・トゥ・ザ・フューチャーの未来はすでに来ていた！

世界が激変したこの30年

今からさかのぼること約32年、1985年の年末に大ヒットした映画が「バック・トゥ・ザ・フューチャー」です。この映画で描かれていた「未来」は2015年、つまり、あの「未来」は、すでに3年前にやって来ていたのです！当時大学を卒業して教師となったばかりの私は、この映画を見



映画に登場した「空飛ぶデロリアン」
さすがに今でもまだ、空を飛ぶクルマはこのあたりでは見かけません。

で描かれていた「とても薄くてやたら大きいテレビ」は、今では当たり前のように一般家庭で見られるようになりまし、当時レコードに代わって普及し始めたのが音楽CDですが、今では「モノ」ではなく、音楽データそのものを買って楽しんでいます。最先端機器であったワープロにいたっては、現在では完全に過去の物となっていました。

30年後の世界とは？
そのときに必要となる力とは？

この30年を振り返ってみると、いかに世の中が変わってきたかということを実感します。それでは、今の中学生たちが社会の中心として活躍する、これから30年先の世界はどうなっ

雑感

金栗四三先生が主人公の大河ドラマ「韋駄天」の放映まであと一年となりました。毎年箱根駅伝の最優秀選手に和水町から贈られている金栗四三杯は、福原町長が諸事情により出席できなかったため、今年は小出教育長から手渡されたそうです。

さて、今回の箱根駅伝は、金栗四三杯を受賞した林奎介選手を7区に擁する青山学院大学の4連覇達成で幕を閉じました。青山学院が初優勝した3年前の箱根駅伝の直後、意地悪な私は、レースの前にインターネット上に数多く掲載されていたレース予想を改めて調べてみました。青学の予想として一番多かったのは4位～6位、中には大胆予想として2位を予想していた記事もありましたが、優勝を予想していた記事は一つも見当たりませんでした。しかし試合後の記事では「圧倒的」「異次元の強さ」という文字が踊っていたのです。何事も実際にやってみるまで、結果はどうなるかわからないものだ、つくづく思った出来事でした。

最近出会った
素敵な言葉

最近いくつかのいい言葉に出会いました。

「うまい合えば足らぬわけ合えばあまる」（あいだみつお）

なるほどです。たとえば8個のミカンをも3人で奪い合えば1個足りないとい争いになります、1個ずつ分けていったら、最後に2個余ります。

「自分の幸せには気づきにくい、不満には敏感である。」（鎌山秀三郎）

こちらもなるほどです。不満があると気になって仕方ありませんが、今の幸せをかみしめることはあまりありません。心の持ち方ひとつで幸せを感じることが出来るのかもしれない。

ハタチまであと何年ですか？

昨日、一月八日は成人の日。各地で当日朝になって晴れ着や着付けの会社のトラブルが問題となったことについて報道され、本当にお気の毒に思いました。

成人の日

ところで今の中学三年生の早い人では、あと4年ちょっとすればハタチとなり、大人として扱われるようにな

考えてみると、ハタチの誕生日を境に、世の中から大人としての振る舞いを求められますが、ある日突然子ども

ります。そう考えると「大丈夫かな」と心配になってくるのは私だけでしょうか？

が大人になることなどありません。「ハタチになったから大人扱いする」のではなく、親や学校、そして社会全体が総ぐるみで、「ハタチまでに大人にする」責任を負っているのです。

学業など今の社会の仕組みの中では、経済的な自立がハタチより後になるのは仕方ないかもしれませんが、いつまでも子どもが精神的に自立できないと、将来面倒を見てもらうどころか、親にツケが回ってくるというのが最近の世時のようです。

来に、いまはまだ見たことも聞いたこともないような職業に就いて、その時代を生きていかなければならぬ現在の中学生たち。彼らが就いている職業とはどんなものなのでしょうか。

いま人間がやっている仕事の多くを、おそらくはロボット（人工知能）がしている30年後の職業とは、人間にしかできないこと、すなわち、①人やロボット

の集団のリーダーとして、一人一人の気持ちを理解し、同じ目標に向かって導くこと、②社会や経済の仕組みを理解し、新たな仕事を創り出すこと、③社会のためになる各種の機械を発明すること、④ぬくもりや優しさ、親切な心を持って人に接するサービス、などではないでしょうか。④について、現在ほとんどロボットの得意分野になりつつありますが、ロボットには人間のような優しさや温かさを伝えることはできないのではないかと、私は考えています。